

話し合いを通して学習課題に迫る授業の工夫

～題材「消費生活と環境」の実践を通して～

三 島 香 子

1 はじめに

技術・家庭科（家庭分野）における「消費者教育」は、生活上の知識を教えたり、適正な商品選択の仕方を教えるだけではなく、個人・家族・社会という各々の価値体系の中で批判的思考力や意思決定能力を助長する基礎的な教育であり、目指す方向は、それぞれの生徒が消費者として、あるいは家族の一員として生活全般に対して、どのような価値観を持つことができるか、それに基づいてどのような意思決定を行い、豊かな生活を営むことができるかにある。¹⁾

意思決定能力を育てる上での留意点として、次の5点が挙げられる。²⁾

- ① 日常的な生活場面を通して育てる
- ② 発想の豊かさを重視
- ③ 多面的な価値に基づく意思決定
- ④ 意思決定の結果に責任を持つ
- ⑤ 多様な価値を受容する

以上のことを考え合わせると、消費者教育において意思決定能力を育成するためには、多様な価値観に触れることができる話し合い活動が非常に効果的であるといえる。話し合い活動は、生徒の自己活動を活発にする学習活動であり、多様な価値に触れることのできる学習活動である。しかし、中学生の時期は、自分の本音を出しにくい時期であり、話し合い活動を行おうとしても円滑に話し合い活動が進まないことがある。学級の雰囲気によって左右される面もあり、話し合いがうまくまとまらず、後味の悪い時間になってしまうこともある。

そこで、本研究では、意思決定能力を育成するために有効な手立てである「話し合い活動」に着目し、目標志向的、内容関連的³⁾な話し合い活動を行うための教師の支援、さらに話し合い活動を生かした授業展開を工夫することで、学習課題に迫る授業実践を試みることを目的とした。研究仮説は以下の通りである。

- ・話し合いの基本的なスキルを生徒に身に付けさせ、グループの状況に応じた支援を行うことで、学習課題に迫る話し合い活動を行うことができるだろう。
- ・話し合い活動を生かした授業展開を工夫することで、より学習への関心を深め、生徒の実践化へとつながるであろう

2 研究方法及び対象

(1) 研究方法

① 学習計画

ア. 題 材 名 私たちの消費生活

イ. 題 材 目 標 ○販売方法の特徴や消費者保護について理解することができる。

○商品の適切な選択、購入及び活用ができる。

○環境に配慮した消費生活を工夫することができる。

ウ. 評価規準表

学習内容	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
商品の選 択と購入	①情報の収集・整理 に意欲的に取り組 み、物資・サービ スを適切に選択・ 購入しようとする。		④適切な情報を収集・ 整理し、商品を選 択できる。	⑤販売方法の特徴や 消費者保護につい て説明できる。
消費生活 と環境	②自分の生活と環境 とのかかわりに関 心を持つようとして いる。	③環境に配慮した消 費生活について自 分にできることを 考える。		

エ. 題材の学習計画 (全6時間)

時	評価	主 な 学 習 活 動	教師の支援 (○) と留意点 (・)
1	①④	○ある商品を選択・購入する時の条件を 考える。	○自分の消費行動と結びつけて考えるた めに「今、自分の欲しい物」を購入す る時、どんなことを条件とするか考え させる。 ○適切な情報を収集できるように表示や カタログ、広告等の多様な資料を準備 する。
1	⑤	○さまざまな販売方法と支払方法の特徴 を理解する。	・それぞれの長所・短所について知らせ る。
2	⑤	○消費生活にかかわるトラブルを知り、 消費者の権利や消費者保護に関する法 律や機関について理解する。	○身近な問題としてとらえさせるために 中学生が被害にあいやすい例を取り上 げたり、資料を提示する。 ○消費者の権利が保障されなかったらど のような商品が出回るようになるか考 えさせることで、消費者の権利の内容 や、重要性を感じさせる。
1 (本時)	②	○快適で便利な生活をもたらすごみ問題 など、生活環境への影響について考え る。 課題：長所と短所を考えよう。 (手作りの弁当とファーストフード、 買い物袋とレジ袋等。)	○生活していく中で意思決定を行うため には様々な価値を考慮する必要がある ことに気づかせるため、話し合い活動 を行う。 ・環境問題に関する資料を提示し、地球 環境を視野に入れた意思決定の必要性 を理解させる。
1	③	○環境に配慮した生活のしかたを考える。 課題：自分にできることを考えよう。	○家族との連携を図るために、自分の家 で工夫していることを聞いてこさせる。 ・今までの学習を生かし、自分の生活の 中でできることを考えさせる。 (標語作り)

②学習指導案

- ア. 目 標 ○話し合い活動に意欲的に取り組み、自分の意見を発表することができる。
○友達の意見や他のグループの発表を聞いた後、自分の生活と環境との関わりについて関心を持つことができる。

イ. 学習過程

時間	生徒の学習活動と意識の流れ	教師の支援 (○) と留意点 (・)
2	○本時の課題を知る。 消費生活と環境	
10	○グループ内でそれぞれの長所と短所について話し合う。 A・手作りの弁当 ←————→ ・ファーストフード (長) 栄養のバランス, 安い (長) 早く食べられる, 手間がかからない (短) 手間がかかる (短) 栄養が偏る, ゴミが増える B・買い物バッグ ←————→ ・レジ袋 (長) 何回も使える, ゴミが減る (長) その場でもらえるので便利 (短) 持っていくのが不便 (短) 使い捨てなのでごみとなる C・水筒 ←————→ ・自動販売機の缶入り飲料 (長) 飲みたい量を飲める, ゴミにならない (長) 種類が多い, 手軽 (短) 水筒を持ち歩かなければならない (短) 量を調節できない, ゴミになる D・洗濯石鹸 ←————→ ・合成洗剤 (長) 環境によい (長) 価格が安い, 水に溶けやすい (短) 水に溶けにくい (短) 水質汚染につながる	
15	◎グループで話し合った内容を発表し、他のグループの発表を聞く。	・長所と短所をカードに書いて黒板に貼らせる。
10	○便利な生活が生み出す環境への悪影響に気づく。 ・環境クイズ	・環境への負荷に視点を与えるためにごみの排出量やペットボトル飲料のリサイクル率, 合成洗剤の分解日数などについて説明する。
10	○自分の生活を振り返る。	○現在の自分の生活行動を振り返るためにエコチェックを行う。
3	○自己評価をし、本時のまとめを行う。	

(評価)

- ・話し合い活動に意欲的に取り組むことができたか。(評価用紙)
- ・自分の生活と環境との関わりについて関心を持つことができたか。(ワークシート)

<評価の実際>

評価規準：関心・意欲・態度 ○自分の生活と環境とのかかわりに関心を持つようとしている。

評価場面（評価方法）：①グループ内での話し合いの場面（観察・ワークシート）

おおむね満足できる（B）	長所・短所を自分で考えて、意見を言ったり、友達の意見を聞いたりして話し合いに参加している。
十分満足できる（A）	家族からの聞き取りをふまえ、便利さ・環境面などのさまざまな視点から、積極的に意見を述べたり、友達の意見を聞いたりしている。
努力を要する生徒への支援	話し合いに参加できるように視点を与えたり、意見を引き出すような声がけをする。

②自己評価の場面（評価表）

おおむね満足できる（B）	環境に配慮した生活の必要性を感じている。
十分満足できる（A）	環境に配慮した生活の必要性を強く感じ、感想の中に環境に関する内容の記述が見られる。
努力を要する生徒への支援	環境へ意識が向くように、便利な生活が環境に与えている影響の大きさを具体的にとらえられる資料を準備する。

③研究期間

2003年6月

(2) 研究対象

島根大学教育学部附属中学校2年の4学級79名。なお、1学級は、全体を半数に分けた半学級編制である。

3 研究結果及び考察

(1) 話し合い活動における基本的なスキル

今回の学習活動で身に付けさせたい基本的なスキルと、具体的な手立てを以下のように考えた。

①自分の意見を持つ

話し合い活動を行うためには、まず、課題に対する自分の意見を持つことが必要である。頭の中で考えるだけでなく、文章化しておくことで、自分の意見を明確にしておくことができ、自信を持って話し合いに参加することができる。また、友達の意見を聞くときに自分との違いと比較しながら聞くことができる。

(具体的な手立て)

前時に、自分の課題に対する意見を持つためのワークシートを生徒に与える。家庭で聞き取りを行ったり、調査学習をすることができ、主観に偏らない意見を持てる。

②みんなの意見を出し合い、グループの意見をまとめる。

グループの意見をまとめる方法としてよく見られるのは、じゃんけんをして代表を決めてその生徒の意見をみんなで検討することもなくグループの意見として発表することである。これでは、グループの意見とは言えない。このような現象が多く見られる原因の一つとして、話し合いの方法を知らないこと、話し合いの良さを知らず、時間の無駄だと思っていることなどが考えられる。話し合いによって共感したり、対立・葛藤したり自己との対話をする中で、視野が広がり、新たな自分を発見することができることに気づかせたい。

(具体的な手立て)

話し合いの方法を細かく指示する。

○司会・記録者を決める

○順番に自分の意見を発表する

○同じ意見は一つにまとめ、違う意見についてはみんなで検討する

グループの話し合いの様子を観察し、円滑に進んでいないグループには、どの段階でつまづいているのか的確に把握し、状況に応じた助言を与える。

(2) グループの状況に応じた支援

各グループの話し合いのまとめは以下の通りである。

【Aグループ】

司会、記録者などの役割分担を自分達で行い、話し合いが円滑に進んだので、教師の助言はほとんど与えなかった。

消費生活と環境

【 手作りの弁当 】

長所

〔 ・ お金がかからない。ゴミが少ない。安い。好きなものを食べる事ができる
・ 自分の量にあわせて。栄養も考えながら作ることが出来る
・ 食べる時に食べれる 〕

短所

〔 ・ 荷物になる。手間がかかる。正しい日時がある。材料を置かないといけない 〕

【 ファーストフード 】

長所

〔 ・ はたか食べれる。好きな物を入れる。作り手間がはぶきり。お財布に優しい
食べれる。どこでも買える 〕

短所

〔 ・ お金がかかる。栄養が足りない。正しい時間がある。ゴミが出る 〕

【Bグループ】

話し合いが行われていなかった
ので、司会と記録者を教師も一緒
になって決め、話し合いのきっか
けを作った。

消費生活と環境

【 買い物バッグ 】

長所

〔ガミが減らせる しょうぶ〕
〔何度でも使える〕

短所

〔自分で持っていかなければいけない〕
〔買物しなければいけない 水がしみる〕

【 レジ袋 】

長所

〔その場でもらえる〕
〔無料 水をはじく〕

短所

〔ガミになる〕
〔しょうぶじゃない 手がいたくなる〕

【Cグループ】

利便性と環境という価値で長所、
短所を考えにくかった。

自分の意見を押し通そうとする
生徒がおり、「対立・葛藤」から抜
け出せないまま時間が終わった。

消費生活と環境

【 水筒 】

長所

〔お金がかからない。(容器がくりかえし使える)〕
〔ガミにならない。〕
〔自分の必要量にのりて行ける。〕

短所

〔持ち運びをしなければならぬ。〕
〔飲んだら場所を気に飲めない。〕

【 自動販売機の飲料 】

長所

〔欲しい時に買える。(お釣りに)〕
〔好きな種類の選べる。〕
〔荷物にならない。〕

短所

〔自動販売機がなければ買えない。〕
〔ゴミが出る。〕
〔体に悪い物が多い。〕

【Dグループ】

環境面からの長所・短所が出ていなかったので表示を見るよう指示し、そちらへ意識が向くよう助言した。

消費生活と環境

【 洗たく石けん 】

長所
 (環境にやさしい。
 肌にもやさしい。)

短所
 (値段が高い。
 あわがれが多い。
 漂白剤が入ると色が落ちる。匂いも強い。)

【 合成洗剤 】

長所
 (値段が安い。 水に溶けやすい。 汚れが落ちやすい。
 におい、かきよめ、部屋でほして色に落ちない。)

短所
 (環境に悪い。
 手があれる。)

(3) 話し合い活動を生かした授業展開

前半の話し合い活動によって、価格・利便性と環境という相反する価値に視点を与えることができたので、さらに環境への関心を高めるために、環境クイズや環境チェックを行った。

(資料1, 2)

☆環境クイズ

①島根県の一人当たりのごみ排出量(1日当たり)は何グラムでしょう。

A. 1114グラム B. 906グラム C. 114グラム

②そのうち容器ごみの占める割合(容積)は何割でしょう。

A. 6割 B. 3割 C. 1割

③ペットボトルのリサイクル率は何%でしょう。

A. 82.5% B. 78.5% C. 34.5%

④国内のレジ袋の年間の廃棄個数はいくつでしょう。

A. 9000袋 B. 19億袋 C. 190億袋

⑤合成洗剤が水の中で分解される日数は何日間でしょう。

A. 1日 B. 20日 C. 30日かかっても分解されない

資料1 環境クイズ

環境について考えながら、あなたの家庭の環境チェックをしよう。

いつも実行している…3点 ときどき実行している…2点
 気にはしているが実行できない…1点 全く関心がない…0点

スタート

ごみは、地域で決められた分別方法で出している。
 (点)

新聞、牛乳パック、缶、
 トレーなどは、リサイクル
 に出している。
 (点)

トイレトーパーは古紙を
 使っている。
 (点)

家電製品、家具などはこわれたら
 修理して長く使っている。
 (点)

流しにはごみ取りネット
 などを利用し、生ごみは
 流さない。
 (点)

食器やフライパンなどの
 油汚れは、ふき取ってか
 ら洗っている。
 (点)

ふろの残り湯は、洗たく
 やそうじに利用してい
 る。
 (点)

冷暖房の温度設定はひか
 えめにして、着るもので
 調節している。
 (点)

外出するときはなるべく自動車を
 使わないで、電車・バスなどを利
 用している。
 (点)

歯みがきや洗面のときは、こまめに
 水をためている。
 (点)

ティッシュペーパーをな
 るべく使用しないでハン
 カチやタオルを使う。
 (点)

なるべく旬の食べ物を
 選び、温室ものは買わ
 ない。
 (点)

テレビや照明は、つけっ
 ぱなしにしない。
 (点)

できるだけつめかえ用製
 品を選び、使い捨て容器
 を少なくしている。
 (点)

食器洗いのお湯は、なるべく低い温度
 にしている。
 (点)

ゴール

合計 点

0～15点の人

16～30点の人

31～45点の人

もっと地球環境のことを考えて
 ください。地球が怒っています。
 あなたは環境にやさしい消費者
 初級コースです。

何かやりたくても、必ずしも実
 行できないあなたは、環境にや
 さしい消費者中級コースです。
 エコライフの実践をめざしまし
 ょう。

あなたは環境にやさしい消費者
 上級コースです。さらにステッ
 プアップしてください。

資料2 環境チェック

(4) 環境への関心の高まり

生徒の授業後の自己評価の結果は表1の通りであった。

	A	B	C
・話し合いに積極的に取り組んだか	84%	16%	0%
・環境への配慮の必要性を感じたか	58%	31%	11%

表1 授業後の自己評価

〈感想〉

自由記述による生徒の感想を「話し合い」「環境」についての2点からまとめた。

話し合いについての記述

- ・いい話し合いができてよかった。(2人)
- ・いろいろな意見を聞いて、楽しく学習できてよかった。
- ・意見や反論が出て、なかなかついていけなかった。
- ・話しにくい課題だった。
- ・一方的に意見を主張する人がいて、困った。

環境についての記述

- ・自分たちの生活と環境との関係がわかってよかった。(3人)
- ・合成洗剤が分解されるのに40日もかかるなんて驚いた。洗剤について詳しくわかった。(2人)
- ・一人当たりのごみの排出量が906gもあったことに驚いた。今日はいろいろなことがわかった。
- ・あまり環境を気にしていなかったが、今日の授業で大事だということがよくわかった。今度から気をつけたい。(2人)
- ・環境にいいものを買ったり、リサイクルをして、ごみを増やさないようにしたい。(3人)
- ・環境によいとはわかっていてもなかなか実行できないので、これからはもっと実行していけたらいいと思う。
- ・私の家庭は環境について考えている。これからも家族みんなで協力して環境破壊を防ぎたい。

84%の生徒が、「話し合いへの積極的な参加」について「A」と答えていることから、話し合い活動を行ったことで課題に積極的に取り組むことができたといえる。また、そのような話し合い活動が行えたということは、今回の実践での教師の具体的な手だてが、生徒に基本的なスキルを身に付けさせる上で効果的であったといえるだろう。しかし、1グループほど、対立・葛藤の段階で話し合いが中断してしまい、学び合いまで高まらなかったグループが見られたので、状況に応じた教師の支援を今後さらに考える必要がある。

「環境への配慮の必要性」については58%の生徒しか「A」と答えていないが、感想の中では、意識の変容が感じられる生徒、実践化・態度化につながる感想などが見られたことから、最初に話し合い活動により学習課題を明確にし、次に環境クイズや環境チェックにより地球環境を視野に入れた意思決定の必要性を実感させる学習展開は、環境への関心を高める上で一つのきっかけとなったのではないだろうか。今後、いろいろな題材の中で繰り返し環境について取り上げていくことで「環境への配慮の必要性」が高まっていくと予想される。

4 ま と め

本研究では、意思決定能力を育成するために有効な学習活動である「話し合い活動」に着目し、授業の中で活動を行うにあたっての教師の具体的な手だて、支援を工夫し、さらに話し合い活動を生かした授業展開を試みた。

初めに話し合いの方法を具体的に示し、話し合いの最中はグループの状況を的確に把握し、課題に迫れるよう言葉かけを行ったところ、教師の意図する意見を、生徒が自ら考えて出し合うことができた。その結果、学習に対する意欲も高まった。


次に、話し合い活動で生徒の中に生まれた自分たちの生活の利便性と環境への負荷という相反する価値について、今後は環境への配慮に重点をおいた生活が必要であることを意識付けるために、環境クイズや環境チェックを行ったり、資料を提示し、説明した。その結果、生徒の環境への関心を高めることができた。しかし、授業の中では、意識を高めることはできたが、具体的な実践を行うことはできなかった。今後、他の題材の中に環境に視点をあてた内容を組み入れ、授業の中で、また家庭生活の中で実践を図れるよう、継続して指導を行うことが課題である。

最後に、本題材のまとめとして行った標語作り（山陰中央新報社環境キャンペーンにおける「環境に関する標語」に応募）の作品を紹介したい。

環境キャンペーン学習シリーズ⑥

絶滅が危惧される生き物たち

ハマニンドウ



海岸沿いに生える常緑の蔓(つる)植物。周囲の樹に絡み高く樹上に伸び上がる。花は筒状で初夏に咲くが、始めは白く後に黄色に変わっていく。沖縄や九州など暖地に分布。島根では大社町宇竜海岸に見られ、自生北限地と考えられる。

環境標語シリーズ 島根大学教育学部附属中2年 万代 桜未さんの作品

考えよう 次の世代の人のことを
今すぐできる対策しよう


島根県環境生活部自然課「しまねレッドデータブック」より

(2004. 1. 24 山陰中央新報)

環境キャンペーン学習シリーズ⑥

絶滅が危惧される生き物たち

ダルマガキ



海岸の岩上や岩壁に生える多年草。高さ約30㍍、葉は10㍍ばかりの卵形。花は径4—5㍍程度で秋に開花、青紫色と白色の二通りの色がある。島根では隠岐島全島の海岸に分布しているが、愛好家による採取で減少している。

環境標語シリーズ 島根大学教育学部附属中2年 松本 亨甫さんの作品

リサイクル言ってるだけではダメなんだ
行動してこそ意味がある

島根県環境生活部自然課「しまねレッドデータブック」より

(2004. 1. 25 山陰中央新報)

<参考・引用文献>

- 1) 『アセットビジュアル家庭科教育実践講座第7巻自立した生活者を育てる消費者教育』(1998), 家庭科教育実践講座刊行会, pp. 168-171.
 - 2) 『アセットビジュアル家庭科教育実践講座第1巻21世紀を生きる子どもを育てる新しい時代の家庭科教育』(1998), 家庭科教育実践講座刊行会, pp. 113-118.
 - 3) 吉本 均 (1995) 『授業改革理論双書(2) 思考し問答する学習集団—訓育的教授の理論(増補版)』東京: 明治図書, pp. 124-154.
- ・〔生きる力〕を育む学びのコラボレーション—かかわり合う中で個が伸びる学習の創造—(第1年次)

(みしま よしこ・技術家庭科)

E-mailアドレス: mishimay@edu.shimane-u.ac.jp